

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：64302

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13198

研究課題名（和文）国際的日本研究における古典文学研究の基層と戦略

研究課題名（英文）Basics and Strategies for International Japanese Studies Research in Classical Literature

研究代表者

荒木 浩 (Araki, Hiroshi)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：60193075

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本古典文学に関する、海外での教育実践、国際発表、シンポジウムの企画などを通して、日本文学研究の国際的展開に新しいスキームを拓く試みを行った。

その過程で、対外観の中で展開した日本文学史の再構築や、自照性の表現をめぐる通時的・比較文化史的考察を進めた。その上で、現代文化や国際社会の中で、日本古典文学研究がどのような役割を担い、いかなる研究提案を行いうるか、ということについて、その学術的根拠を問いつつ、研究成果の発表と公刊を果たした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、日本古典文学研究の国際的展開に新しいスキームを拓く試みを行い、現代国際文化の中で、古典研究がいかなる研究や思考提案を行いうるか、ということ問い、研究成果の発表を行った。とりわけ学術的には、夢や視覚文化と古典文学をめぐる国際的比較研究をおこなった論文がフランスの学術誌（仏語訳）と中国の学術誌（中国語訳）で公刊され、また対外観と日本古典文学に関する論文が中国の学術誌の40周年記念号に掲載されたこと（中国語）を特記したい。社会的意義としては、京都新聞の連載や読書フォーラムなどをはじめとして、一般の読者や聴衆に対しても、積極的に研究成果を公表した点を挙げておきたい。

研究成果の概要（英文）： In the current research, I attempted to carve out a new dimension in the global development of the Japanese literary studies through overseas education programs, research presentations at international forums and organizing symposiums related to Japanese classical literature.

In the investigation process, I explored the reconstruction of the Japanese literary history in relation to certain international consciousness, and conducted a diachronic and comparative cultural analysis on the manner of self-reflective writing practices. While questioning the academic premises of the role of the Japanese classical literature studies and the potential research direction it may provide in the context of contemporary culture and international society, I made research presentations and published several academic papers.

研究分野：日本文学

キーワード：古典教育・研究の国際的戦略 古典研究の現代性 自照性 対外観 大衆文化の歴史的研究 夢文化 死生観

1. 研究開始当初の背景

本研究開始時の学術的背景は、概観すると3つあった。

1つは、これまでの研究代表者の国際日本研究の蓄積と海外での発表・教授体験を踏まえた挑戦的萌芽研究「超越的文化バイアス論としての古典文学研究の可能性」(代表者荒木、平成26～8年度)の成果と展望である。2つ目は、研究代表者が国際日本文化研究センターで開催した「夢と表象」共同研究(代表者荒木、平成23～27年。荒木編『夢見る日本文化のパラダイム』法蔵館、2015年、同編『夢と表象』日文研叢書、勉誠出版、2017年参照)で得た学際的展望。3つ目は、平成28年度より日文研が推進する基幹研究プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」への中心的メンバーとしての参画と推進である。

研究代表者が中心的対象とする日本中世文学の研究は、ここ半世紀で劃期的な発展を遂げ、歴史、宗教、美術他、隣接分野との交流も盛んである。とりわけ絵巻類などのコンテンツは、アニメやマンガの起源のように喧伝され、国内外の関心も高い。だが、学術的な国際発信という面で、現代との連続性をめぐる解析や比較研究は十分ではない。たとえば現代視覚文化に広く根付くフキダシという形象の分析には、西洋の speech scroll や balloon、babble との関係はもとより、夢の表象をめぐる12、3世紀以降の中国絵画のフキダシと印刷文化、日本絵画への影響の問題、18世紀以降の西洋文化との接触や近代化の問題などが複雑に入り組み、それを解決して、ようやく、マンガ文化の問題へと到る(前掲『夢見る日本文化のパラダイム』他参照)。

そこには、言語表象や心性の把握をめぐる、重要な比較文化論的問題が存在する。こうした重層的な位相は、現代文化の通時的考察において至るところに潜んでいるが、肝心の歴史的推移の学術的解明が置き去りにされたままでは、本質的な解明にはほど遠い。古典研究に立脚した徹底的なマテリアルの分析、通時的俯瞰を積み重ねる研究蓄積とともに、それをグローバルな視界の元に置いて相対化する研究視点の獲得と、それを国際・社会に向けて発信する、方法的学術言語の準備が必要であり、それらが総合的に構想される必要があると考え、本研究は始発した。

2. 研究の目的

本研究は、上記の認識を前提として、研究代表者のそれまでの国際的な日本古典文学研究の蓄積を前提に、挑戦的萌芽研究「超越的文化バイアス論としての古典文学研究の可能性」の研究を起点とし、日文研共同研究「夢と表象」の研究成果を受け、日文研新規プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」を併行して推進する中で、国際日本学における古典文学研究の国際的展開をめぐる新しい役割と、方法論の創出を目指し、さらに近年、日本像の発信が、アーリーモダンから現代にかけての大衆文化に特化される中、通時的視点において、古代・中世の文字文化や絵巻など視覚文化の研究が、今日の国際的な日本研究や文化論の中で、いかなる学術的コンテクストを形成し、達成・貢献しうるのか。それらを総合的に捉えて、日本文化研究の未来図にも視界を拓くべく、日本古典文学研究の基層と戦略のありかを提示しようとするものである。

研究期間内においては、以下の6項目にポイントを定めて、研究を推進した。

日本古典文学の海外での教授システムの把握と構築、

バイリンガル教科書の作成とそれを通じて見える視界、

大衆文化研究の日本古典文学における応用、

日本古典文学における「世界」と「世界」の中での日本古典文学提示の方法論の確立、

対外観の中での日本古典文学史の再構築、

自照性の比較文化史的問題、

以上の項目を基軸に研究を開発し、日本古典文学の国際的研究の可能性と戦略、そして学術的根拠を問いながら、研究を開発した。

3. 研究の方法

本研究は、上記「研究の目的」に定めた ～ の研究ポイントを基軸として実績を積み重ねるとともに、そこで構築された研究視界を、未来へ向けて展開すべく、以下のような研究方法をもって、研究を展開した。

(1)バイリンガル教科書の作成を通じて、日本古典文学の海外での教授システムの把握と構築を行う。

(2)大衆文化研究の中で、日本古典文学の位置づけと応用の可能性を探る。

(3)日本古典文学における「世界」と「世界」の中での日本古典文学という構図から、日本古典文学研究の国際的展開に新しいスキームを拓く。その延長線上に、対外観の中での日本古代古典文学史の再構築を行う。

(4)中世の『徒然草』に象徴される自照性の比較文化史的問題を通時的にあらためて問い、日本文化における「個」や「私」意識を再照射する。

(5)以上の分析を通じて、現代国際社会で展開する総合的な日本学において、日本古典文学がどのような役割を担い、いかなるケーススタディを積み重ね得るのか。その学術的根拠を問いつつ、研究成果の発表と公刊を行い、さらに大衆文化共同研究のマネージと貢献(ワークショップ

の企画など)などを併せて、その達成を総合的に提示する。
以上である。

4. 研究成果

本来の計画年度である3年間(平成28~30年度)における研究成果は以下のごとくである。
「研究の目的」に掲げた六項目(~)について、「研究の方法」で示した(1)~(5)に配置する形で記述する。

(1)

平成28年度において、タイ(チュラーロンコーン大学、6週間)とブルガリア(ソフィア大学、2週間)において、日本文学の客員教授として、日本語及び一部英語の講義と講演を行い、日本古典文学教育の推進と教材作成を行った。(研究テーマ ~)

平成29年度は、ベトナム国家大学外国語大学で開催された国際シンポジウムに招聘されて出席し、日本古典文学研究の立場から、日本語・日本研究に関する分析と方法について、発表と議論・検討を行った。(研究テーマ ~)

平成30年度には、ベトナムのトアン氏(元日文研外国人研究員)が『徒然草』ベトナム語訳を出版するに際し、作業についてのアドバイザーをつとめた。(研究テーマ ~)また日本古典文学の研究・教育・教科書作成を研究課題とするベトナム国家大学のニュー講師をJSPSの外国人特別研究員として受け入れ、教材開発の議論を進めた。(研究テーマ ~)なおニュー研究員は、平成31年度に「俳句」に関する入門書をベトナム語に翻訳し、現在刊行準備中である。

(2)

平成28年度に、日文研の基幹研究プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」がスタートした。その中で研究代表者は、日文研共同研究「投企する古典性 視覚/大衆/現代」を発足させ、本科研の課題研究と連動して、古典研究と大衆文化研究をめぐる通時的・国際的・現代的視点からの考察を開始し、平成31年度まで継続した。平成28年度には、韓国の学会で、同上研究の所在について、基調講演を行い(研究テーマ ~)平成29年度に、その内容を韓国の学会誌に発表した。(研究テーマ ~)同年度、日文研所蔵の絵巻類についての簡易リストを作成し、その内容にも関連する古典と現代の京都をめぐる分析を、京都新聞「文遊回廊」などで行った。(研究テーマ ~)

平成30年度には、ラトビアで開催されたバルト三国のアジア学会(国際交流基金の支援あり)に招聘され、夢文化に関する基調講演を行った。(研究テーマ ~)

(3)

平成28年度以来、対外観の中での日本古典文学史に関する論文を発表するなど研究を続けた。とりわけ平成29年度においては、「投企される 和国 性」と題する、ユニークな論文を発表した。(研究テーマ ~)

平成30年度においては、コロンビア大学と名古屋大学共同開催の borders をテーマとするシンポジウムに参加し、日英バイリンガルのペーパーを共有して発表と議論を進めた。(研究テーマ ~)

(4)

平成28年度において、日本中世文学の「自照性」に関する比較文化的考察を学会のシンポジウムのパネリストとして発表し、その一部を成稿して、平成29年度に刊行した。(研究テーマ ~)

平成30年度においては、日本中世文学の死生観・世界観と自照性に関する比較文化的考察について、学会誌に論文を発表した。(研究テーマ ~)

(5)

研究期間を通じて国際学会・国内学会に参加し、研究テーマに即した国内外の専門的研究者との研究交流を行った。平成28年度は、タイ、ブルガリア、フランス、韓国などである。(研究テーマ ~)

平成29年度においては、リスボンでの15th EAJIS International Conferenceに参加し、アメリカの研究者2人とともに Dream Vision in Premodern Japan というパネルを組み、『源氏物語』と夢文化をめぐる英文発表を行った。(研究テーマ ~)またブルガリア・ソフィア大学で行われた日本研究のワークショップに企画から参加し、日本古典文学の立場から基調講演を行い、英語によるワークショップにも出席した。(研究テーマ ~)

平成30年度においては、日仏両政府の国家的事業であるジャポニスム2018に、国際交流基金・人間文化研究機構と共同で参画し、パリ日本文化会館開催のシンポジウムの実行委員とパネルチェアを務めた。(研究テーマ ~)またハンブルク大学と名古屋大学共催の古写本文化をめぐるワークショップに参加して発表した。(研究テーマ ~)

以上の研究を重ねた上で、平成31(令和1)年度、1年間の研究期間延長を申請した。2年前

から招聘依頼があったパリの INALCO、パリ大学、日本文化会館でのシンポジウム「身と心の詩学 『源氏物語』を起点として」(2020年3月12-14日開催予定)を本科研の最終地点と定め、研究の総括を行うためである。(研究テーマ)

同シンポジウムは仏、日、米、蘭など各国から研究者を迎え、仏日英の3言語で発表する国際学会で、8月初に早稲田大学で打合せ、10月にパリを訪問した際にも準備を進め、2月にはすべてのペーパーが揃い、プログラムはEAJS他に告知された。同時にパリ大学の客員として古典文学の講演を予定していた(「徒然草の世界と研究の現在」)(以上、研究テーマ)が、直前に、COVID-19の影響でパリ開催が中止になった。シンポジウムについては、COVID-19の状況を見据え、現状では、令和2年9月末を目途に論文を提出し、COVID-19収束後、年末にラウンドテーブルを行い、来年の出版を進める計画である。フランスで行う予定だった講義は、9月の仏教文学会での招聘講演において関連の成果を発表するが、引き続きフランスでの開催可能性を調整する。

この他、「グローバル時代における人文学の日越協力」と題して行われたベトナム国家大学ハノイ校でのシンポジウムでは「ベトナムにおける日本文化研究の実践と展開」について発表し、古典文学の国際化と連携そして教育について大きな進展を得た。(研究テーマ)

また文学と世界遺産、21世紀の人文知と世界の古典学などのテーマに関するシンポジウムに参加し、その中で共同研究のテーマを模索し、2020年度のEAJSパネルメンバーとして応募・参加決定となった(COVID-19の影響で開催は2021年に延期)。(研究テーマ)

なお平成30年度には『源氏物語』と『ハムレット』の対比を通じて夢文化の国際的比較研究を推進した論文が、バージョンアップの上、フランス語訳され、フランスの学術誌に公刊された。また平成26年度は夢文化と「フキダシ」などについて、31年度には対外観と日本古典文学・思想に関して、それぞれ中国の学術誌に中国語翻訳論文を発表し、公刊された。後者は同学術誌の40周年記念号への招待執筆である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 荒木浩	4. 巻 18
2. 論文標題 「独生独死」観の受容と「翻訳」論的問題 中世の孤独と無常をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 物語研究	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 荒木浩	4. 巻 1
2. 論文標題 海外での古典研究と教育 その実践と展望について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ベトナムにおける日本語教育と日本研究 人材育成のための連携可能性を巡って	6. 最初と最後の頁 26-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 荒木浩	4. 巻 42
2. 論文標題 Reve et vision dans la litterature japonaise classique : notes pour la lecture du Roman du Genji	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Extreme-Orient Extreme-Occident	6. 最初と最後の頁 73-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4000/extremeorient.894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 荒木浩	4. 巻 27
2. 論文標題 フキダシをめぐる夢の形象 中日交流の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 荒木浩	4. 巻 1
2. 論文標題 源隆国の才と説話集作者の資質をめぐる検証 研究史再考をかねて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倉本一宏編『説話研究を拓く 説話文学と歴史史料の間に』	6. 最初と最後の頁 142-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 208
2. 論文標題 投企される 和国性 『日本往生極楽記』改稿と和歌陀羅尼をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 186-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 1
2. 論文標題 『今昔物語集』の成立と宋代 成尋移入書籍と『大宋僧史略』などをめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本的時空観の形成	6. 最初と最後の頁 335-386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 第100輯2巻
2. 論文標題 古典文学の現代的・国際的投企性 (projection) 視覚とメディアをめぐる事例紹介と展望	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日語日文学研究 日本文学・日本学篇 (韓国)	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 1
2. 論文標題 国文学史 の振幅と二つの戦後 西洋・「世界文学」・風巻景次郎をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学問をしばるもの	6. 最初と最後の頁 145-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 23
2. 論文標題 妊娠小説 としてのブッダ伝 日本古典文学のひながたをさぐる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 海外シンポジウム報告書南太平洋から見る日本研究：歴史、政治、文学、芸術	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15055/00006873	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 62
2. 論文標題 散文の生まれる場所 中世 という時代と自照性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 24-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.24604/chusei.62_24	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 51
2. 論文標題 対外観の中の仏教説話と説話集 「諸教要集」をめぐって	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 186
2. 論文標題 从对白框看夢的形象	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日語学習与研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 204
2. 論文標題 11世紀日本対謝靈運的認識及評価差異	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日語学習与研究	6. 最初と最後の頁 109-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 10
2. 論文標題 源隆国晩年の対外観と仏教 宇治一切経蔵というトパスをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木 浩	4. 巻 90
2. 論文標題 <私>の物語と同時代性 書くこと、読むこと、訳すこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 169-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 17件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 子を投げる?身を投げる? 中世仏伝の耶輸陀羅形象と源氏物語享受をめぐって
3. 学会等名 Varieties and Patterns of Manuscripts in Medieval Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 Reviewing Japanese Dream Culture and its History: Where Ancient, Medieval and Modern Times Encounter
3. 学会等名 3rd Conference of Baltic Alliance for Asian Studies DYNAMIC ASIA: SHAPING THE FUTURE (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 投企する古典性 ブッダ・『源氏物語』・聖徳太子から考える
3. 学会等名 日本大衆文化シリーズ講座in北京 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 古典に遊び、時空を翔る
3. 学会等名 京都新聞第5回 読者交流フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 月の文学史点描 道長の望月、兼好の有明、煙にむせぶ近代の月
3. 学会等名 京都府立図書館連続講座（平成30年度第4弾）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 リレートーク「文遊回廊～古典をいただき 古典に抱かれて～」
3. 学会等名 古典の日フォーラム2018（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 Une culture franco-nippone qui traverse le temps et l'espace: Ce que revele la Collection Tronquois 時空を駆ける日仏の文化 表象 トロンコワ・コレクションが照らし出すもの
3. 学会等名 Dialogue franco-japonais 5 日仏ダイアローグ “Le Japon vu par les Francais /La France vue par les Japonais フランス人がみた日本、日本人がみたフランス（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木浩
2. 発表標題 “The Formation of the Image of the Dragon Palace in Akashi: A Dream Linking the Genji monogatari and the Heike monogatari” (in Japanese) 「明石における龍宮イメージの形成 『源氏物語』と『平家物語』をつなぐ夢」
3. 学会等名 "Borders, Performance, and Deities Symposium Between Worlds: Borders, Performance, & Deities Session 5: “Dreams, Deities, and Borders” 夢、神仏、境界”（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 身を投げる / 子を投げる 仏伝の変容と古典の投企性をめぐって
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性 視覚 / 大衆 / 現代」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 謝靈運のコンテクスト 『徒然草』読解のために
3. 学会等名 謝靈運を中心とした六朝詩と日本文学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 Rethinking the Tale of Genji in Japanese Dream Culture and its Representations
3. 学会等名 15th EAJS International Conference 2017（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 海外での古典研究と教育 その実践と展望について
3. 学会等名 ハノイ国家大学外国語大学, 国際シンポジウム「ベトナムにおける日本語教育と日本研究 人材育成のための連携可能性を巡って」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 師走の月の すさまじさ 古代から見る『徒然草』
3. 学会等名 Teaching and Promoting Japanese Literature and Culture: Present state, Challenges and Perspectives for Networking (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 遍在する靈験 中世の観音説話が照らし出す日本文学の世界
3. 学会等名 全南大学校日本文化研究センター「日本研究フォーラム」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 散文の生まれる場所 中世 という時代と自照性
3. 学会等名 中世文学会春季大会(シンポジウム)(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 世界 から見える日本の 古典 海外にいて日本文学を読むこと
3. 学会等名 チェンマイ大学人文学部日本研究センター(授業内講演)(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 日本文学と夢の文化史 『ねむり展』という窓から
3. 学会等名 チュラーロンコーン大学文学部日本語講座特別講演（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 Dream and Japanese Culture:Where Ancient and Modern Times Meet
3. 学会等名 ソフィア大学パブリックレクチャー（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 もう一步先の古典読解 古代・中世文学の向こう側
3. 学会等名 京都府 文化を未来に伝える次世代育み事業「学校・アート・出会いプロジェクト」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 ベトナムにおける日本文化研究の実践と展開 日本古典文学に関する事例とコンソーシアムの連携のことなど
3. 学会等名 グローバル時代における人文学の日越協力
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 ラウンドテーブル - コンソーシアム構築に向けて - テーマ：国際化する研究環境 - 人文学の場合 -
3. 学会等名 第5回 日本語の歴史的典籍国際研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 投企する古典性－視覚／大衆／現代という問題提起をめぐって
3. 学会等名 表象を超えた新しい主体／非主体 伝統の投企と汎用性 （招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木 浩
2. 発表標題 光源氏と 二人の父 の宿命再説 仏伝が照らし出す『源氏物語』の視界をめぐって
3. 学会等名 国立韓国放送大学校講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 荒木浩・近本謙介・李銘敬（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 236
3. 書名 アジア遊学 208 ひと・もの・知の往来 シルクロードの文化学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際日本文化研究センター（ホーム > 研究者 > 荒木 浩）
<http://research.nichibun.ac.jp/pc1/ja/researcher/staff/s005/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----